



## 1 現役よねやま親善大使が語る活動の意義

2013年から始まった「よねやま親善大使」制度。今回は第5代よねやま親善大使として現在活動中の陳瑶さん(2012-14/四日市東RC)に、応募したきっかけや活動の意義についてお伺いしました。



### 【陳瑶さんのメッセージ】

米山奨学生時代に得た経験は、私の価値観、人生観、世界観に大きな変化をもたらし、物心両面で大きく成長するきっかけとなりました。この事業のすばらしさを広めたい、自身が受けた恩恵を次世代に還元し、ロータリーの理念を広める一助になりたいと思い、応募しました。

親善大使として活動する中で、さまざまな人々との出会いがあり、国や文化を超えた交流を通じて視野を広げ、常に学びと成長を続ける原動力となっています。また、自身の奨学生時代の経験や思いを語ることで聴衆の心を動かし、事業への理解が深まり、支援の輪が広がります。自らの言葉の力で人々の意識を変え、行動を促

すことが、大使活動の大きなやりがいです。

単なる事業のアピール役ではなく、ロータリーの理念の実践者として、現役奨学生や学友の代弁者としての役割があると感じています。国際理解、親善、平和の推進を加速させ、次世代にその精神を引き継ぐため、重要な懸け橋としての意義があると思っています。

これまでの活動を通じて、多くの方から「米山奨学事業への理解が深まった」「もっと寄付したくなった」「寄付の使途が明確で納得感がある」といった励みになるお言葉を頂きました。



6月末の任期終了まで、これまで以上に積極的にロータリーの各種イベントに参加し、私自身の経験や思いをありのままに表現し、米山奨学事業の魅力を引き続き伝えていきたいと考えています。ぜひ、一人でも多くの方と共有できれば幸いです。

## 2 上海米山学友会 総会開催

1月11日、上海市内にて上海米山学友会総会が開催され、約40人が参加しました。

総会では、ロータリーと米山奨学事業の歴史を振り返った



後、活動報告を行い、経済的支援が必要な雲南省の小学生への奨学金授与や、学友同士の勉強会・交流会の様子などが紹介されました。その

後、若い学生たちが理想を実現できるよう支援する組織を目指し、小学生への奨学金支給の継続、スポーツ用品などの寄贈や、同学友会が2018年から実施して

いる自閉症の子どもたちを支援する施設へのサポートといった、2025年度の活動計画が発表されました。

### 3 寄付金速報 — 2025 年は緩やかにスタート —

前年同期比

-9.7%

普 -1.3% 特 -13.5%

1 月末までの寄付金は前年同期と比べて 9.7% 減（普通寄付金:1.3%減、特別寄付金:13.5%減）、約 1 億 660 万円の減少となりました。前年度比は減

少となっておりますが、特別寄付金の前年度比については単月寄付額が微増しています。

例年 1 月は、普通寄付金（クラブで決定した金額×会員数分をお送りいただく定期寄付）の下期分の納入が主となります。2 月も引き続き、皆さまのご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

### 4 イヤーエンドパーティー開催 各国のクイズを出題

12 月 8 日、国際ロータリー第 2640 地区米山学友会がイヤーエンドパーティーを開催し、現役奨学生・学友 27 人を含む、約 40 人が参加しました。



クイズ大会で手を挙げる参加者たち

開会挨拶の後、同学友会会長のグエン ティ トウ チャンさん（2019-21/和歌山南 RC）から活動計画などが発表されました。その後、奨学生・学友たちの出身国の食文化、お正月や日常生活に関する問題が出題されるクイズ大会、ベトナム出身の奨学生によるバンブーダンス、プレゼント交換会が行われ、大盛り上がりとなりました。

チャンさんは、「奨学生・学友の皆さんが積極的に参加し、準備をしてくれたおかげで各国の文化を楽しく紹介することができ、その団結力に深く感動しました。2025 年も全力で協力し合い、より良い活動を目指していきたいです」と述べました。

### 5 新年茶会で茶道体験

1 月 4 日、国際ロータリー第 2610 地区米山学友会と同地区米山記念奨学委員会が共催する「米山新年茶会」が、金沢 21 世紀美術館内の松涛庵しょうとうあんで開催され、現役奨学生・学友 13 人を含む計 24 人が参加しました。

茶道体験では、専門家が茶道の歴史や作法を解説し、参加者は茶会の趣を体感しながら茶道を知る機会となりました。続いて行われた新年



松涛庵で茶道を体験

会では、正月のお弁当を囲みながら、参加者一人ひとりが自己紹介や新年の抱負を語り合いました。その後、初詣のため石浦神社を参拝しました。文化体験を通じた交流で、参加者からは「親睦を深めるとともに、日本文化を改めて学ぶ良い機会となった」といった声が上がりました。

